

主要計数の推移および活動の状況

2024年度 事業報告 補足資料

自2024年4月1日 至2025年3月31日



一般社団法人

日本自動車連盟

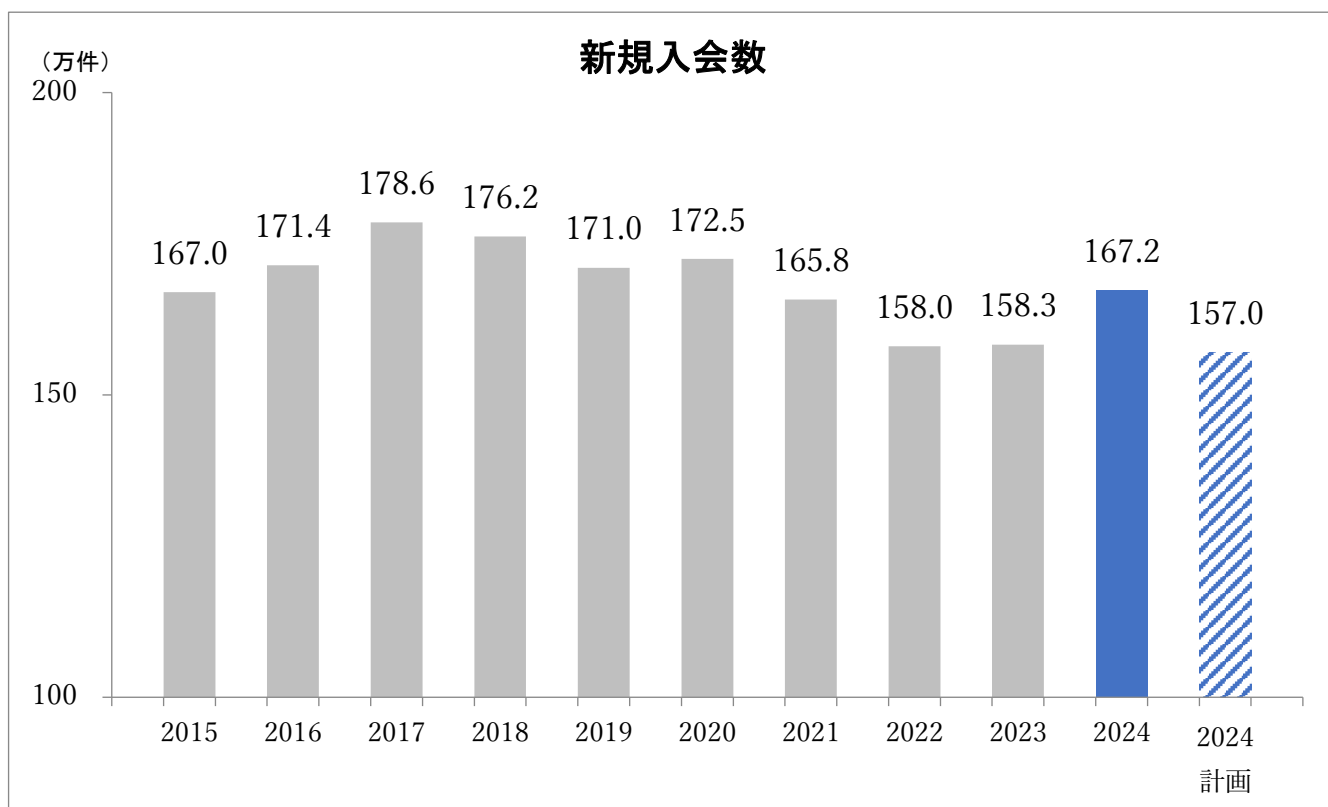
目次

1	主要計数等の推移	4
(1)	会員	4
(2)	交通環境啓発活動	5
(3)	ロードサービス	5
(4)	会員サービス	6
(5)	モータースポーツ	6
(6)	広報・マーケティング活動.....	7
(7)	主要計数の達成状況	8
2	活動の状況	9
(1)	会員	9
①	自動車販売店向け営業支援ツール J A F L I N K S	9
②	自動車販売店におけるウェブ入会システム J a f e n t a	9
③	J A Fスマートフォンアプリの登録および利用促進	10
(2)	交通環境啓発活動	11
①	交通事故減少に向けた取り組み	11
②	2024 年度自動車税制改正に関する活動	17
(3)	ロードサービス	18
①	二輪アタッチメントとタイヤ貸出サービス	18
②	ビデオアドバイザーロードサービス	18
③	BEV・FCEVへの対応	19
④	救援要請ウェブサイトおよびJ A Fアプリでの救援要請	20
⑤	ロードサービス競技会	21
(4)	会員サービス	22
①	良質な会員サービスの提供	22
②	自治体との連携および地域振興活動	22
(5)	モータースポーツ	23

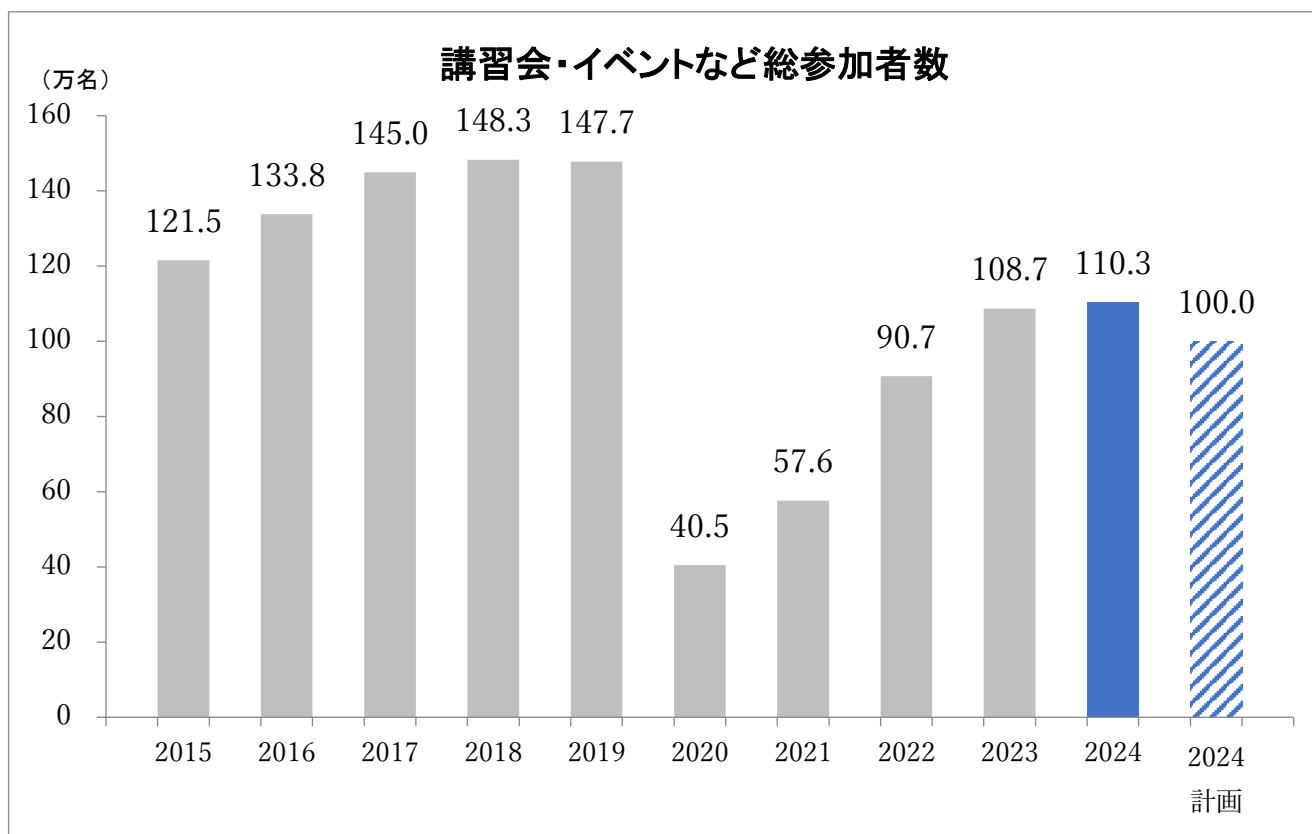
①	各種専門部会の開催	23
②	競技会審査委員の派遣	23
③	モータースポーツにおける安全性向上への取り組み	23
④	F I A（国際自動車連盟）世界選手権の開催	24
⑤	国際大会への日本代表選手の派遣	24
⑥	2024 全日本スーパーフォーミュラ選手権第 4 戦「瑠子女王杯」	24
⑦	「J A F モータースポーツジャパン 2025 in 横浜」の開催	25
⑧	モータースポーツのすそ野を拡げる取り組み	26
⑨	E モータースポーツの普及拡大	26
⑩	自動車専門学校生を対象とした勉強会への協力	27
⑪	2024 年 J A F モータースポーツ表彰式の開催	27
⑫	ドライバー・オブ・ザ・イヤー2024 発表授与式典の開催	28
⑬	モータースポーツ業務システム構築プロジェクト	28
(6) 広報・マーケティング活動		29
①	ファンとのコミュニケーション	29
②	マーケティング活動のための環境整備と実践	30
③	認知およびブランドイメージ向上施策（SNS 広告）	30
④	各種イベントへの PR ブース出展	31
⑤	ウェブサイト「J A F M a t e O n l i n e」	32
⑥	日本遺産オフィシャルパートナーシッププログラムの締結	32
⑦	モビリティ・レジリエンス・アライアンス	33
⑧	J A F ロードサービス隊員制服アップサイクルプロジェクト※	34
(7) 国際活動		35
外国運転免許証の翻訳		35
(8) 人事と組織		36
①	入社式および新入職員養成研修の実施	36
②	採用活動について	36
③	人的資本への投資	36
④	健康経営の推進	37
⑤	新規事業創出に向けた組織風土醸成	37
⑥	地域社会との対話を通じた課題解決の推進	38
(9) 情報システム		39
①	デジタル・データリテラシーの学習体制整備	39
②	基幹システム更改に関連するプロジェクト活動	39
③	I T デジタルを活用した業務改善	41

1 主要計数等の推移

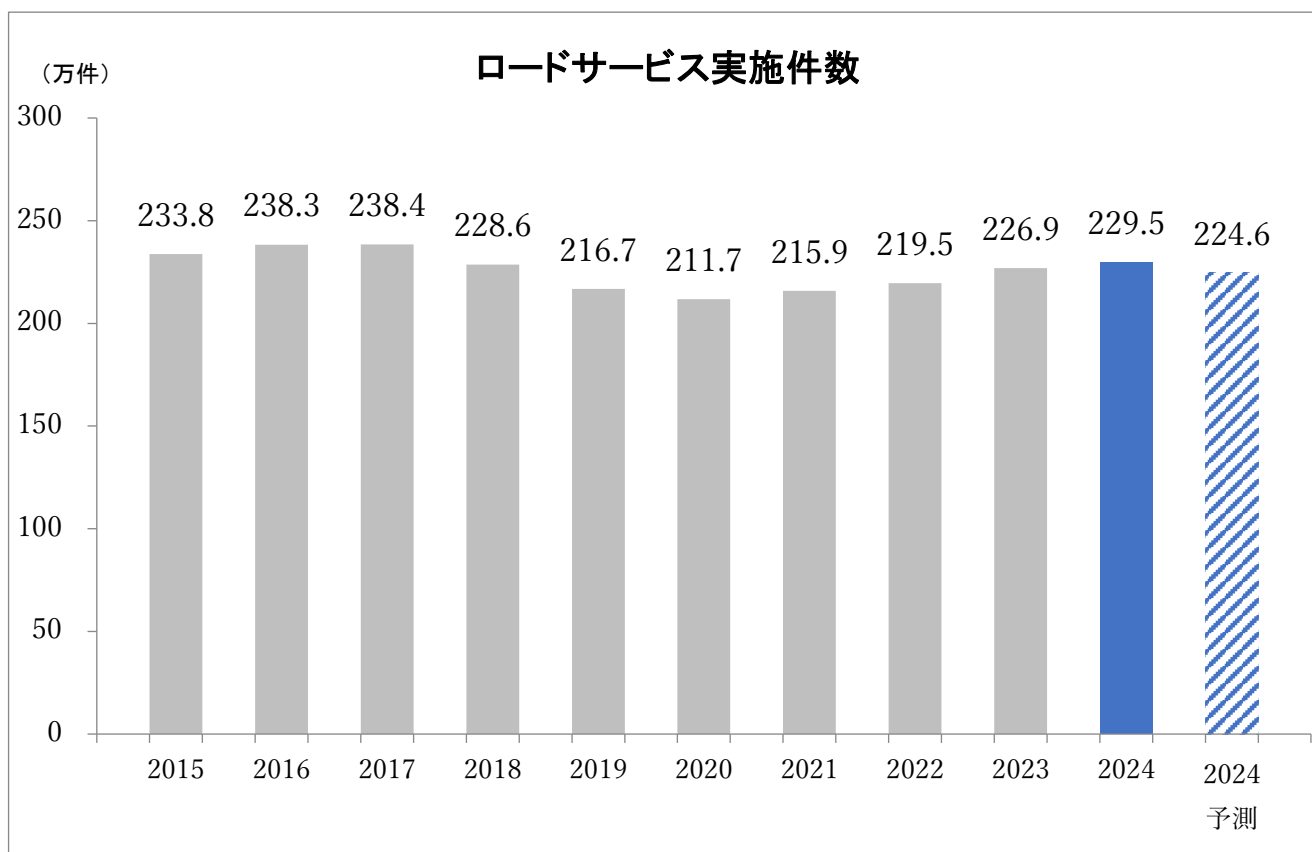
(1) 会員



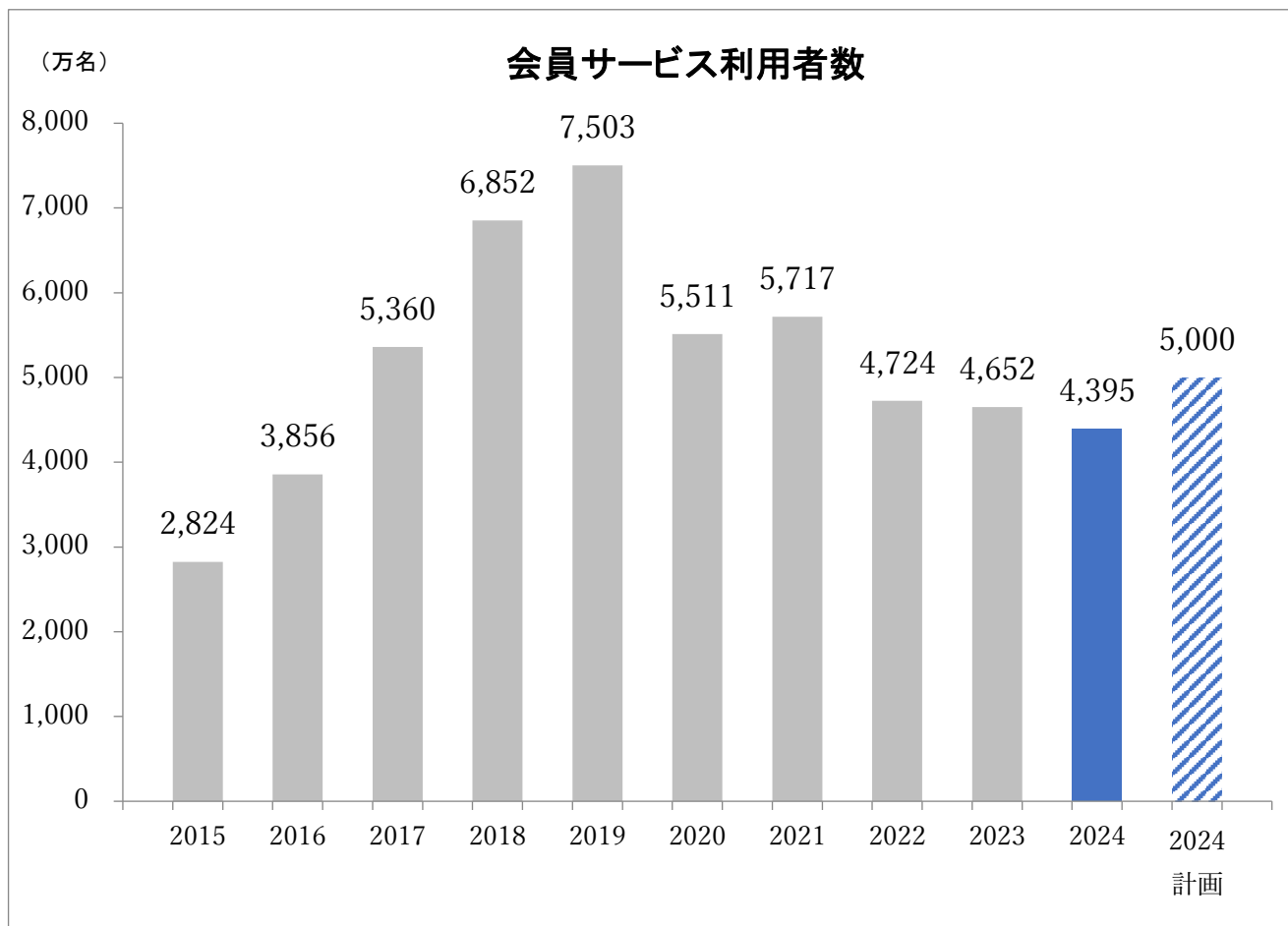
(2) 交通環境啓発活動



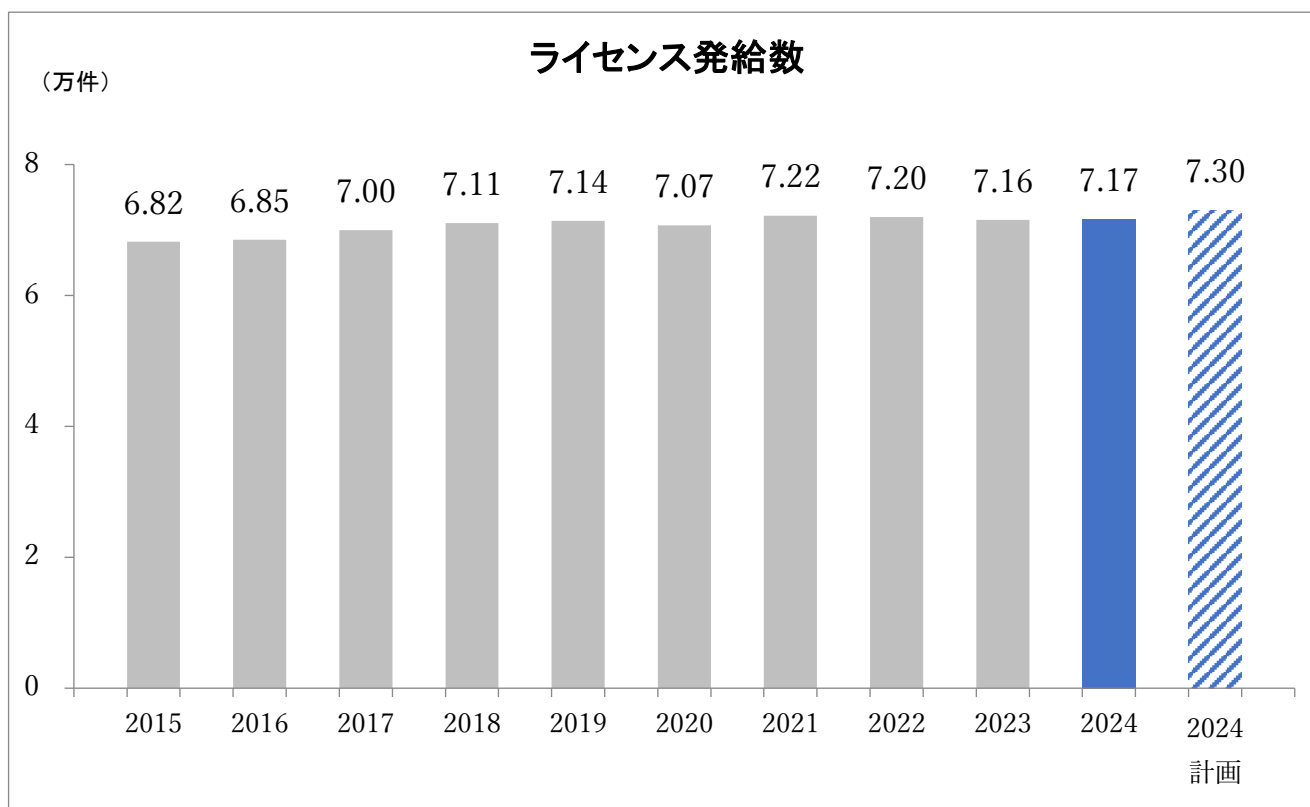
(3) ロードサービス



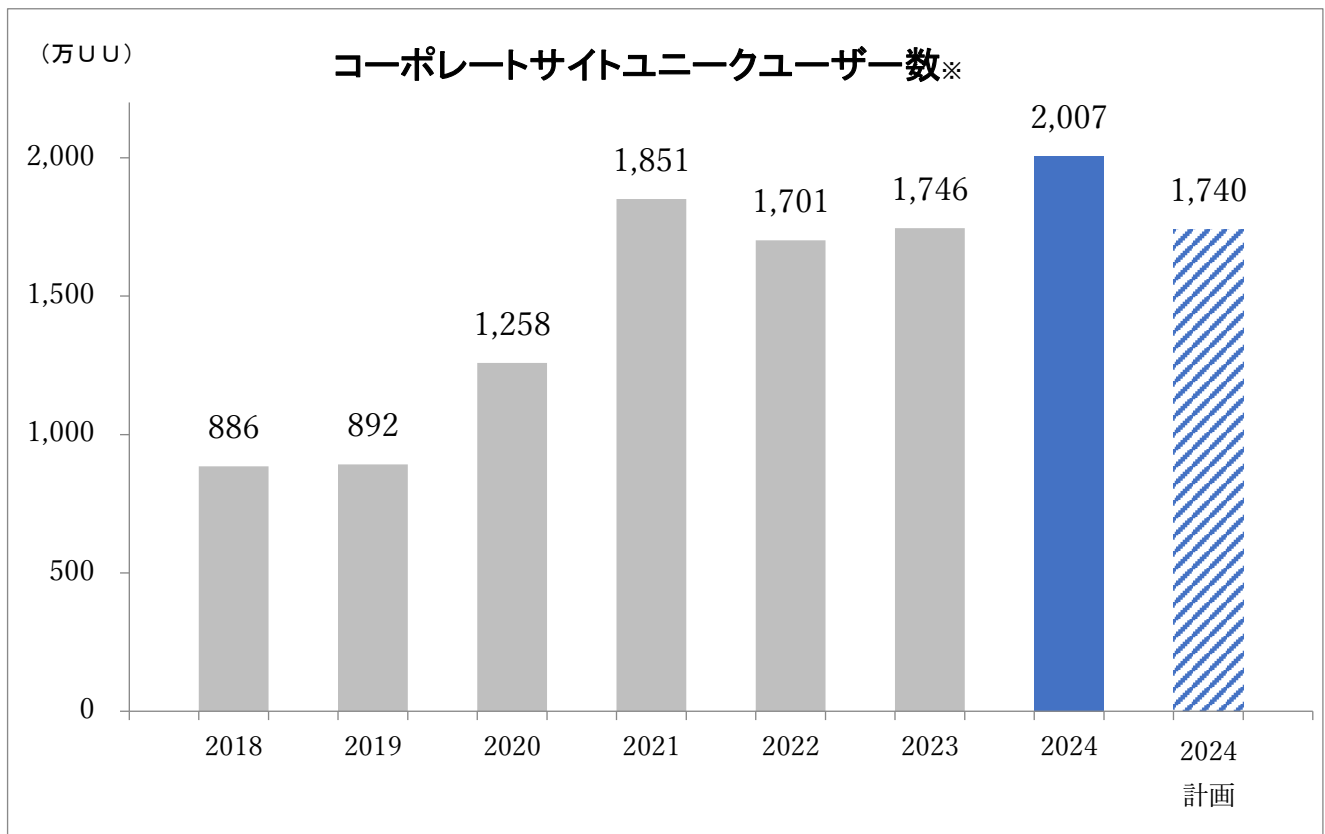
(4) 会員サービス



(5) モータースポーツ



(6) 広報・マーケティング活動



※ ユニークユーザー数：ある期間内にホームページやその特定のページを訪問したユーザー数を示すものです。

J A Fでは2018年度から計測しています。

(7) 主要計数の達成状況

1 会員

在籍会員数

(単位:名)

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2024年度 計画数
19,707,591	19,931,302	20,099,526	20,301,304	20,501,501	20,816,804	20,670,000

JAFスマートフォンアプリ(デジタル会員証)登録者数

(単位:名)

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2024年度 計画数
3,662,790	4,409,915	5,131,788	5,943,100	6,693,222	7,427,640	7,300,000

2 交通環境活動

総参加者数

(単位:名)

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2024年度 計画数
1,477,357	404,968	575,747	906,949	1,086,598	1,102,864	1,000,000

3 会員事業

通年優待利用者数

(単位:名)

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2024年度 計画数
37,441,761	24,225,216	25,586,498	28,538,227	28,216,443	25,042,975	30,000,000

アプリクーポン利用者数

(単位:名)

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2024年度 計画数
186,799	421,985	1,056,822	2,129,714	3,246,521	3,754,405	3,800,000

4 モータースポーツ

ライセンス発給数(集計:1~12月)

(単位:件)

2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年度	2024年 計画数
71,374	70,710	72,188	72,000	71,562	71,672	73,000

5 広報活動

コーポレートサイトユニークユーザー数 ※1

(単位:UU)

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2024年度 計画数
8,915,504	12,584,438	18,507,418	17,012,756	17,457,360	20,065,726	17,400,000

モータースポーツサイトユニークユーザー数 ※1

(単位:UU)

	500,805	499,254	859,785	844,343	991,436	978,910	950,000
--	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

JAFナビユニークユーザー数 ※1

(単位:UU)

	10,044,660	9,524,153	11,699,170	12,315,414	14,216,012	11,302,860	15,000,000
--	------------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------

JAF Mate Onlineユニークユーザー数

(単位:UU)

	2022年度	2023年度	2024年度	2024年度 計画数
	4,814,431	9,351,284	14,136,079	10,000,000

【ご参考】

ロードサービス実施件数および予測数 ※2

(単位:件)

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2024年度 予測数
2,166,947	2,117,485	2,158,586	2,195,442	2,268,868	2,295,304	2,246,000

モータースポーツ 競技会開催数および予測数(集計:1~12月) ※3

(単位:件)

2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年度	2024年 予測数
841	537	678	800	784	787	748

※1 ウェブサイトに訪問した月間のユーザーの数の累計数

※2 予測数のため参考として表示

※3 2024年より予測数として表示

2 活動の状況

(1) 会員

① 自動車販売店向け営業支援ツール J A F L I N K S

令和6年能登半島地震におけるロードサービス特別支援隊の活動報告動画をJ A F L I N K Sに公開し、J A Fの活動に対する理解の向上をはかりました。

また、J A F L I N K S上で自動車販売店およびその顧客に対して「自動車税制に関するアンケート」への回答を依頼し、自動車業界共通の課題に対する活動を促進しました。

その他、主に小学生を対象に、J A Fの仕事やその魅力を楽しんでいただくためのウェブサイト「J A Fキッズ」の紹介や、アプリクーポン利用促進キャンペーンの告知など、活動やサービスを幅広く知っていただける記事を掲載しました。

② 自動車販売店におけるウェブ入会システム J a f e n t a

J a f e n t aは、お客様のモバイル端末で年会費のクレジットカード支払いを登録する機能を備えています。新規入会時に会費の自動振替が登録された割合は88.8%と、前年度に比べ大幅な増加となりました。自動振替登録のペーパーレス化で、さらなる業務効率化や個人情報取扱リスクの軽減につながることを期待されます。

なお、次期システム稼働により自動振替依頼書が廃止されました。自振率低下を防止するため、クレジット登録機能の利用実績を地方本支部へ展開して利用促進をはかりました。

③ JAFスマートフォンアプリの登録および利用促進

JAFアプリ登録者にそのメリットを実感していただくため、抽選でデジタルギフトが当たるキャンペーンを展開しました※1。当キャンペーンやクーポン企画、プッシュ通知施策などにより、JAFアプリのユニークユーザー（UU）数※2 およびクーポン利用数は、前年度同期に比べいずれも増加しました。

	期間	2024 年度	2023 年度	増減	前年同期比
ユニークユーザー数 (単位：UU) ※3	10～12 月	4,038,966	3,674,173	364,793	109.9%
	1～ 3 月	4,514,980	3,595,075	919,905	125.6%
クーポン利用者数 (単位：名)	10～12 月	940,787	554,775	386,012	169.6%
	1～ 3 月	1,105,687	701,007	404,680	157.7%

※1 10～12 月はアプリクーポン画面の閲覧、1～2 月はアプリクーポンの利用をキャンペーン参加の条件としました。

※2 ユニークユーザー（UU）数とは、アプリの閲覧や利用をしたユーザー数のことです。

※3 それぞれ、3 か月期間の純ユーザー数を記載しています。



JAFスマートフォンアプリ（TOP）



クーポン利用促進キャンペーン（1/20～2/24）

(2) 交通環境啓発活動

① 交通事故減少に向けた取り組み

ア 学童用チャイルドシート(ジュニアシート)の使用目安を変更

9月12日より、学童用チャイルドシート使用を推奨する体格(身長)の目安を「150cm未満」とし啓発することとしました。道路交通法では6歳未満の子どもにチャイルドシートの使用が義務付けられていますが、6歳以上であっても体格によっては車のシートベルトが十分な効果を発揮できない場合があるためです。

体格の目安は身長150cm未満、シートベルトが首やお腹にかからないことを確認のポイントとしてユーザーに啓発します。



Youtubeチャンネル「[体格に合ったチャイルドシートの必要性～時速55kmで衝突した際の検証～【JAFユーザーテスト】](#)」より抜粋

イ 日本作業療法士協会との協働

一般社団法人日本作業療法士協会と協働し、身体・健康面からも安全運転を支援する取り組みを全国で実施しています。11月には兵庫県と静岡県で握力・血圧測定、脳機能チェック、安全運転相談、運転機能維持トレーニング、認知反応時間測定体験などをおこないました。



兵庫県士会との取り組み風景



静岡県士会との取り組み風景

ウ 社会のニーズをとらえたJAFユーザーテストの実施

(ア) 車とは異なるバイクの特性とは？（4月公開）

四輪車とはハンドルやブレーキ操作が異なる二輪車の特徴の理解と事故防止のため、二輪車の排気量や重量別に制動や旋回の特性について比較検証しました。



テスト車両



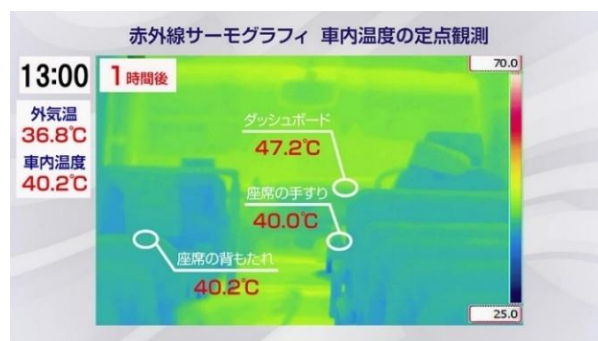
125cc テスト旋回の様子

(イ) 真夏の車内温度～車両の大きさによって差はあるのか？～（7月公開）

普通自動車（ミニバン）と大型車（バスなど）による温度変化の違いや熱中症の危険性について検証しました。



テスト車両（送迎用バス・ミニバン）



テスト開始1時間後の車内温度（バス）

(ウ) チャイルドシートの衝突実験（9月公開）

3歳と6歳のダミー人形を後部座席に乘坐「チャイルドシートを正しく使用した場合」と「チャイルドシートおよびシートベルト不使用の場合」とで比較検証しました。



衝突時の様子（左：チャイルドシート不使用、右：正しくチャイルドシートを着用）

(エ) チャイルドシートの衝突実験（1月公開）

側面衝突時の衝撃や子どもの挙動を計測し、その結果をホームページおよびYouTube公式アカウントに公開しました。



衝突時の様子（左：正しい取付け方法でテスト、右：シートベルトを使用した場合でテスト）

エ ユーチューバーと交通安全のコラボ動画を公開

幅広い年齢層の自動車ユーザーが交通安全をもっと身近に感じられるように、YouTube公式アカウントの「JAF Channel」に動画を公開しています。

ユーチューバーの木村亜美氏と制作した動画「JAF先生に教わった！」シリーズとして、4月に「バイクの運転 基本編」、9月に「チャイルドシートの取付け方・着座方法」の2本を公開しました。

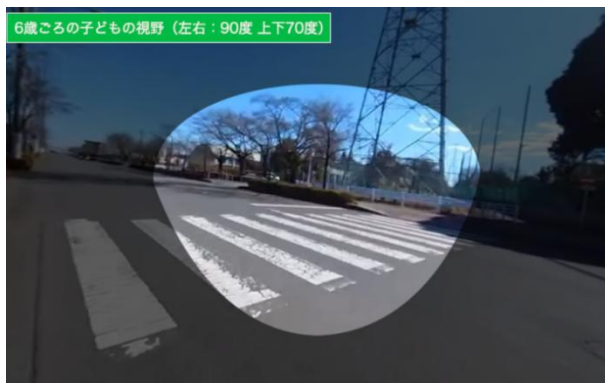


左より：バイクの運転 基本編（4月公開）、チャイルドシートの取付け方・着座方法編（9月公開）

オ もしもの状況を疑似体験する360度VR動画

子どもの視野は大人よりも狭く、大人には見えている信号や車が子どもには見えていない可能性があります。

子どもの視野を再現するために特殊な映像処理をした動画「子ども目線・大人目線編」を、5月にコーポレートサイトに公開しました。子どもの視野が狭いことを認識し、安全運転に留意するよう呼びかけました。



子ども目線の視野



ドライバー目線

カ 実写版危険予知事故回避トレーニング（KYT）

さまざまな交通シーンにおける交通違反や事故防止の啓発を目的に、9月に「自転車編」、10月に「交差点編」、11月に「路面電車編」、12月に「雪道編」、3月に「踏切編」各2本計10本をコーポレートサイトに公開しました。



踏切編（踏切横断時の危険）



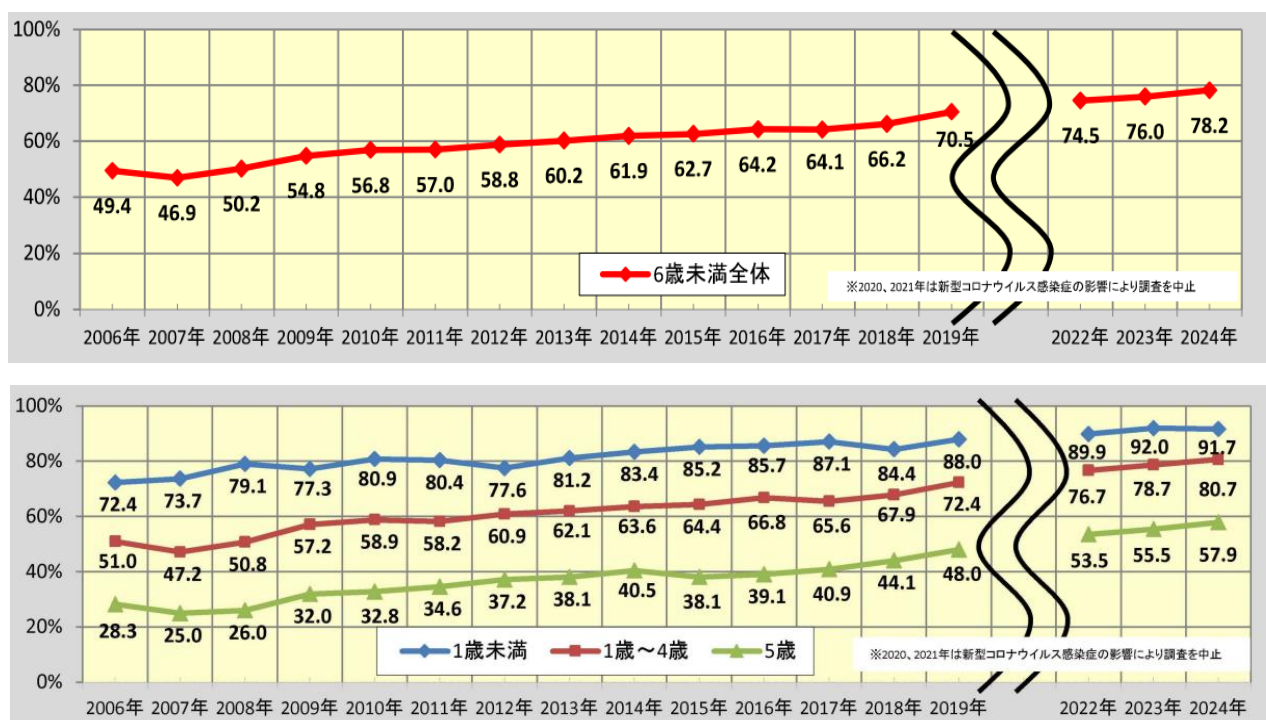
雪道編（駐車場からの出庫時の危険）

キ チャイルドシート使用状況全国調査

5月11～26日に警察庁と合同で「チャイルドシート使用状況全国調査」を実施しました。全国99箇所で調査した結果、6歳未満の子ども全体の使用率は78.2%（前年度比2.2ポイント増）と過去最高となりました。

「チャイルドシート取付け状況調査」では、自動車に正しく取り付けられていたのは69.8%（前年度比7.9ポイント増）、正しく着座していた子どもは55.7%（前年度比7.8ポイント増）と、チャイルドシートの取付けや着座状況について課題を確認しました。

プレスリリースを発信するなど、不使用時や間違った取付け・着座による危険性を広く社会に訴えました。

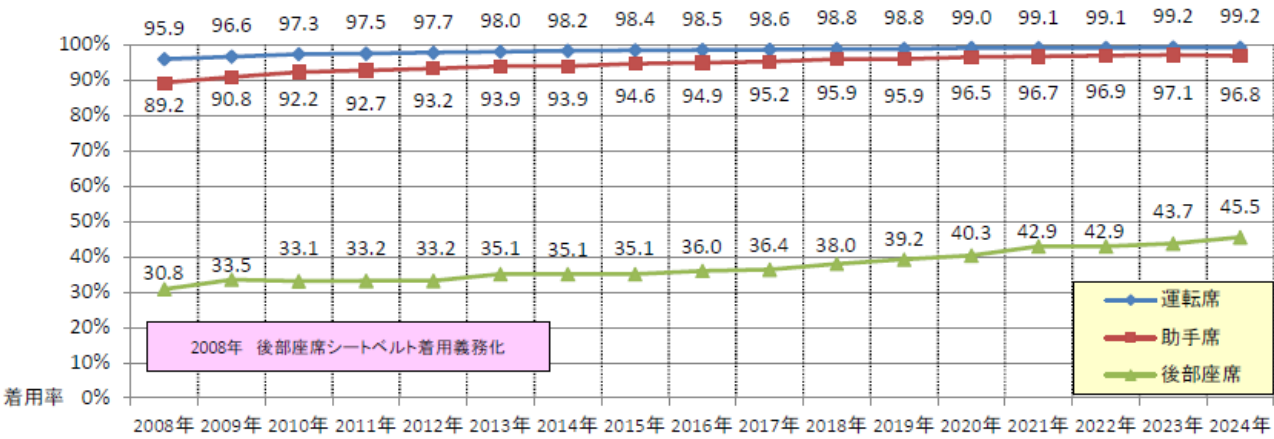


使用状況調査結果（グラフ上：6歳未満全体、下：年齢層別）

ク シートベルト着用状況全国調査

10月7日～11月8日に警察庁と合同で「シートベルト着用状況全国調査」を実施しました。運転席の着用率は、一般道路で99.2%（前年同値）、高速道路などで99.6%（前年同値）、助手席においてもそれぞれ96.8%となりました。

後部座席のシートベルト着用率は、一般道路で45.5%（前年度比1.8ポイント増）、高速道路などで79.7%（前年度比1.0ポイント増）と、後部座席の着用率は依然として低い結果となりました。



一般道路における着用率の推移

ケ 信号機のない横断歩道における実態調査

8月7～28日の平日に、信号機のない横断歩道（全国94カ所）で、歩行者横断時における車の一時停止状況を調査しました。その結果、一時停止率の全国平均は53.0%と、前年の調査時に比べ7.9ポイント増加し、過去最高となりました。

北海道	青森県	岩手県	宮城県	福島県	秋田県	山形県	新潟県	長野県	茨城県	栃木県	群馬県
34.1%	59.9%	57.1%	70.3%	68.8%	54.0%	55.0%	49.0%	87.0%	35.2%	67.9%	51.8%
埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	富山県	石川県	福井県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
50.8%	46.8%	38.7%	58.4%	65.3%	31.6%	80.9%	34.7%	75.2%	68.8%	61.0%	64.3%
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
68.6%	45.3%	40.4%	57.8%	55.9%	36.2%	54.1%	57.6%	67.2%	58.5%	42.9%	44.4%
香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	全国平均
41.9%	64.1%	42.2%	74.3%	40.0%	46.3%	74.8%	41.5%	70.2%	39.6%	41.0%	53.0%

2024年 信号機のない横断歩道における車の一時停止率（全国）

コ ボランティアによる交通安全活動

(ア) 交通安全実行委員会の活動

危険や不便な道路、標識に関する改善提案が 336 件寄せられました。安全で円滑な道路交通環境を整備するため、各支部では交通安全実行委員会を計 68 回開催し、250 件の改善要望を関係機関に提案しました。以前から要望している案件を含め、42 件の改善が確認されました。

(前年度実績：改善提案 249 件、交通安全実行委員会 57 回、改善要望 165 件、改善確認 118 件)



改善前：カーブ先の交差点の通行帯に関して、路面標示はなし（香川・坂出市）



改善後：路面標示が追加され、カーブ先の交差点が右左折専用レーンであることが明確になった

(イ) J A F 交通安全ドレミぐるーぷ

音楽演奏（演劇・紙芝居等含む）などを通じて幼児に交通ルールを守ることの大切さを伝えるボランティアグループ活動「J A F 交通安全ドレミぐるーぷ」の公演を開催しました。公演回数は 131 回、参加者数は 13,059 名となりました。



サ JAF交通安全トレーニング（交通安全eラーニング事業）

企業や団体を対象とした交通安全管理に役立つサブスクリプションサービスを提供しています。導入企業は65社で3,050アカウントとなりました。



毎日学習できる教材バリエーション



配信教材画面（イメージ）

② 2024 年度自動車税制改正に関する活動

ア 自動車税制に関するアンケート調査

5月1日～8月20日の期間、自動車ユーザーを対象に実施し、132,152名の方々から回答いただきました。アンケートの結果、回答者のうち98.9%が、自動車に課せられている税金を大きな負担に感じていることが分かりました。

イ 自動車ユーザーへの活動（街頭活動など）

5～9月の期間、イベント参加者などを対象に「自動車ユーザーの生の声を集める活動」を全国各支部で実施し、1,113名の声が集まりました。寄せられた意見は、国会議員や省庁への要望書の提出やコーポレートサイトでの公開のほか、JAF本部のある日本自動車会館での展示などさまざまな喚起活動に活用しています。

ウ 各地の要望活動

アンケート結果をもとに、自動車税制のあり方について国会議員や省庁に対して全国の各支部より要望活動をおこないました。また、幅広く要望を周知するために全国47都道府県で街頭活動を実施しました。



自動車ユーザーの生の声を集める活動

(3) ロードサービス

① 二輪アタッチメントとタイヤ貸出サービス

現場での作業効率向上やCS向上を目的として、二輪アタッチメントによる二輪車の搬送やタイヤ貸出サービスを実施しています。

二輪アタッチメントを利用した作業件数は、二輪車の救援要請 9.3 万件のうちの 4.8% にあたる 4,446 件となりました。

タイヤ貸出サービスは、パンクによる救援要請 467,132 件のうちの 6.6%にあたる 30,867 件に対応しました。



二輪アタッチメントを使用したけん引



タイヤ貸出サービス用に搭載されたタイヤ

② ビデオアドバイザーリーロードサービス

お客さまからの救援要請を受け、ビデオ通話でつなぎ状況を把握する「ビデオアドバイザーリーロードサービス」は 269 件に対応しました。

そのうち 39.8%の 107 件はサービスカーが出動することなくトラブルを解決し、問題解決までの時間を短縮しました。



ビデオアドバイザーリーロードサービス（イメージ）

③ BEV・FCEVへの対応

ア ポータブル充電器の導入

BEV（電気自動車）特有のトラブルである電欠に対応するため、ポータブル充電器を搭載したサービスカーを導入しました。

ポータブル充電器は、既存のバン型サービスカーや主力のレッカー車に搭載しています。前年度に稼働開始していた 19 台に加え新たに 9 台が稼働し、全国 17 都道府県で合計 28 台体制となりました。



EV 充電対応サービスカー

稼働支部

札幌、宮城、東京、千葉、埼玉、神奈川、愛知、静岡、大阪、兵庫、山口、香川、徳島、愛媛、福岡、佐賀、熊本



ポータブル充電器（サービスカー搭載）

ポータブル充電器（レッカー車搭載）での充電の様子

イ 水素ロードサービスカー

FCEV（燃料電池車）の水素切れに対応できるように、トヨタ自動車と共同で水素ロードサービスカーのプロトタイプを前年度より開発を進め、改良を重ねています。



機能検証車（2023 年度）



実証車（2024 年度）

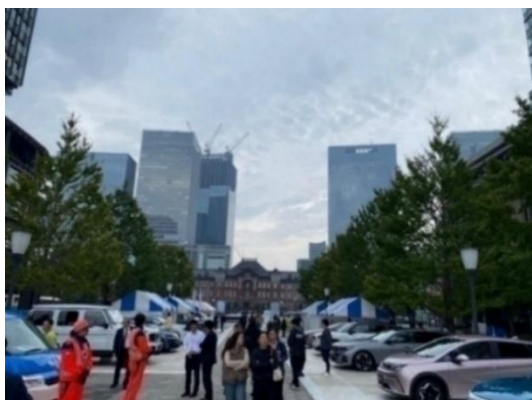
ウ EVロードサービス救援件数 TOP 3

（単位：件）

救援内容	2024 年度	構成比
① タイヤのパンク、バースト、エア圧不足	2,945	31.3%
② 過放電バッテリー	1,918	20.4%
③ EVの駆動用電池切れ	1,049	11.1%

エ 「J A I Aカーボンニュートラル促進イベント i n 東京」にブース出展

11月に東京・丸の内エリアにおいて開催された「J A I Aカーボンニュートラル促進イベント i n 東京」にE V充電対応のサービスカーを展示し、一般ユーザーをはじめとする関係者にP Rしました。



イベントの様子（東京・丸の内）

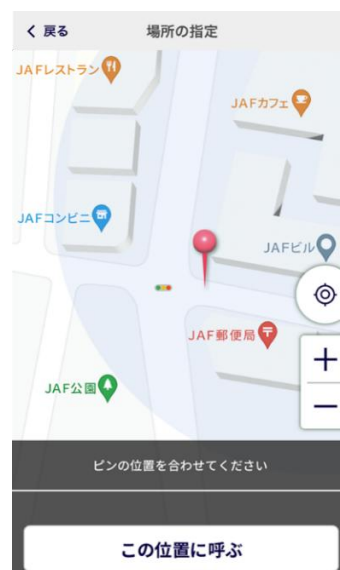
④ 救援要請ウェブサイトおよびJ A Fアプリでの救援要請

救援要請の利便性の向上や受付時間の短縮、繁忙期における応答件数の増加を目的に、コーポレートサイトへ「J A Fを呼ぶ」ページを公開しています。当ページ経由では1.3万件的救援要請に対応しました。J A Fアプリでの救援要請は27.6万件と、前年度にくらべ7.8万件的の増加となりました。

ロードサービス救援要請時に、お客様がウェブサイトやアプリで入力し送信された場合、電話受付時と比較すると以下のメリットがあります。

メリット	効果
・ 応答率の向上 ・ 電話聞き取りや入力に必要な時間や労力の削減	・ 入力ミスの抑制 ・ 受付時間や現場到着時間の短縮 ・ つながらない場合や、待っている間のストレス軽減 ・ 安心感の提供

救援要請ウェブサイト（入力画面）



J A Fアプリ（救援要請場所の指定）

⑤ ロードサービス競技会

ロードサービスの価値体験の機会を設け、JAFファンの増加につなげることを目的に、隊員が培った高度な技術を広く世間一般に公開する競技会を 8 地方本部で開催しました。

地方本部	日程	場所
北海道	10 月 20 日（日）	札幌・イオンモール札幌平岡
東北	10 月 5 日（土）	宮城・ゆりあげ港朝市
関東	11 月 24 日（日）	千葉・イオンモール幕張新都心
中部	9 月 15 日（日）	福井・福井市にぎわい交流施設「ハピテラス」
関西	10 月 6 日（日）	兵庫・神戸ハーバーランド
中国	10 月 4 日（金）	広島・イオンモール広島祇園駐車場
四国	10 月 20 日（日）	香川・イオンモール高松
九州	11 月 3 日（日・祝）	福岡・姪浜ドライビングスクール



中国本部



関西本部



中部本部



中国本部

(4) 会員サービス

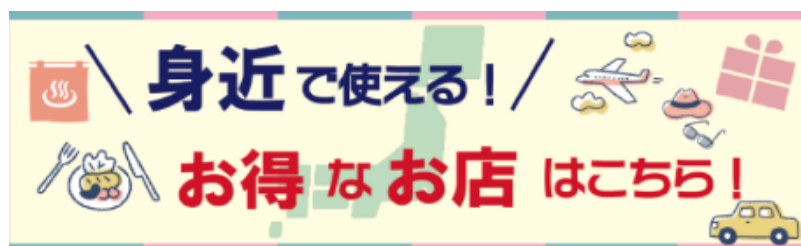
① 良質な会員サービスの提供



J A Fナビ 優待ページ

J A F公式優待情報サイト「J A Fナビ」およびJ A Fアプリへの訪問者数は合計で 2,857.7 万UUと、前年度にくらべ 44.9 万UUの増加となりました。

2月14日～3月14日の期間においては、アプリ優待ページのトップに全国で使える優待施設ページへ遷移するバナーを掲載し、7,213UUの流入がありました。



掲載バナー

② 自治体との連携および地域振興活動

全国の自治体や観光協会と連携し、ドライブスタンプラリーや各種イベントを企画・実施し、総参加者数は 20.7 万名となりました。



地域振興活動（静岡・静岡市 梅ヶ島温泉街にてガストロノミーウォーキング!）

(5) モータースポーツ

① 各種専門部会の開催

12 種類のモータースポーツ専門部会および各部会に属する作業部会を合計 89 回開催しました。

② 競技会審査委員の派遣

全日本選手権競技会の 41 競技会に対し、審査委員を 106 名派遣しました。

③ モータースポーツにおける安全性向上への取り組み

ア 講習会の開催

モータースポーツ安全性向上策の取り組みの一環として、ラリー競技におけるスペシャルステージの安全性向上を目的とした講習会や、次世代自動車を用いた講習会を京都府、愛知県、福岡県、北海道で開催し、のべ 462 名が参加しました。

イ 分科会の設置

J A F 役職員ならびに各委員が順守すべき法令等を定めるなどの目的で、モータースポーツ審査委員会に「倫理部門」を設置しました。5 月、7 月の 2 回の討議を経て「モータースポーツ倫理要項」ならびに「モータースポーツ倫理要項に基づく通報・相談窓口に関する細則」を制定し、8 月 16 日付でモータースポーツサイトに公示しました。

ウ ライトパネルの使用

5 月より、施設が整備されているサーキットではスーパーフォーミュラやスーパー G T などのレース競技において、マーシャルポスト※からの信号指示を旗（フラッグ）からライトパネルに替えてトライアル運用しています。ドライバーの視認性向上による選手の実安全確保やオフィシャルの負担軽減をはかります。

※ マーシャルポスト：レース運営にあたる係員（マーシャル）が待機する地点。コース周辺の監視などをする。



ラリー競技救出訓練（福岡）



ライトパネル（静岡・富士スピードウェイ）

④ F I A（国際自動車連盟）世界選手権の開催

以下の競技会が開催されました。

競技会名	期間	場所
F I A フォーミュラ 1 世界選手権シリーズ 「F 1 日本グランプリ」	4 月 5～7 日	鈴鹿サーキット
F I A 世界耐久選手権 「富士 6 時間耐久レース」	9 月 13～15 日	富士スピードウェイ
F I A 世界ラリー選手権 「ラリージャパン」	11 月 21～24 日	愛知県・岐阜県

⑤ 国際大会への日本代表選手の派遣

4 月 19～21 日に台湾で開催された国際ジムカーナ競技会「2024 TAIPEI INTERNATIONAL GYMKHANA PRIZE」（Chinese Taipei Motor Sports Association 主催）に、全日本選手権に出場している日本代表 3 名を派遣し、アジア地域のモータースポーツ振興に協力しました。



2024 TAIPEI INTERNATIONAL GYMKHANA PRIZE の様子



⑥ 2024 全日本スーパーフォーミュラ選手権第 4 戦「瑤子女王杯」

7 月 19～21 日に富士スピードウェイで、「第 1 回瑤子女王杯 全日本スーパーフォーミュラ選手権第 4 戦富士大会」が開催され、瑤子女王殿下から坪井翔選手 (36 号車 VANTELIN TEAM TOM'S) に賜杯が下賜されました。



賜杯

⑦ 「JAFモータースポーツジャパン 2025 in 横浜」の開催

モータースポーツ振興のための大規模イベント「JAFモータースポーツジャパン 2025 in 横浜」を、3月22～23日に開催しました（主催：JAF）。

本イベントでは、「親子で『見て』『聞いて』『触って』『体感する』モータースポーツ」をコンセプトに、ジムカーナやレース競技車両のデモ走行、EVキッズカート体験、最新レーシングカーの展示など、多彩なプログラムを展開しました。未来のファン層の育成のため、特に若年層や家族連れを対象とした体験型コンテンツを充実させました。

また、横浜という観光地との相乗効果を活かし、行政や警察、観光施設、商業地との連携を強化し地域活性化にも寄与しました。モータースポーツのすそ野を広げるとともに、交通安全の啓発や環境対応車の普及促進にもつとめました。



フォーミュラ車両のデモ走行



懐かしのレーシングカー



ジムカーナ車両



ロードサービスの模擬作業



二日間で 44,500 人の来場者を数えました。

⑧ モータースポーツのすそ野を拡げる取り組み

ア オートテスト

2015 年から導入したオートテストは、ヘルメットやグローブを必要とせず、自家用車両で参加できる競技です。安全かつ容易に、より多くの方が参加体験でき、モータースポーツのすそ野を拡げています。参加者数はのべ 5,288 名と、前年度同期にくらべ 995 名の増加となりました※。

各自治体や自動車販売店、クラブ団体等と協力し、大型ショッピングモールの駐車場などで開催されています。6 月には東京で自動車販売協会の親睦会として開催され、10 月には広島で自社のお客様を対象に自動車販売店 4 社共催で開催されました。

※ 集計期間：2024 年 1～12 月

イ 新種競技「ドリフトテスト※」の初開催

6 月 23 日に栃木県のドライビングパレット那須で、「ドリフトテスト」を初開催しました。2015 年に導入された「オートテスト」以来となる新種競技で、30 台の募集枠が埋まる盛況ぶりとなりました。

※ ドリフトテスト：一定区画内に任意に設定された 180 度ターン（または円旋回、8 の字など）の区間を滑走状態で正確に走行し、滑走状態で停止枠内に正確に帰結するコンテスト。



オートテスト（6 月、東京）



J A F ドリフトテスト（6 月、栃木）

⑨ Eモータースポーツの普及拡大

新時代のモータースポーツとなりうるEモータースポーツの認知拡大をはかるため、8 月 29 日、「eモータースポーツ 3 か年（2024～2026 年）計画」オンライン発表会を報道関係者向けに開催しました。



オンライン発表会の様子



e スポーツ部会ミッション

⑩ 自動車専門学校生を対象とした勉強会への協力

サーキットに来場する地元の自動車専門学校生がそれぞれの現場を体感・体験し、将来的にモータースポーツへ参加・協力することを目的に、スーパーGT各レース会場で勉強会が開催されました。

開催には各支部が協力し、同シリーズに参戦するコンドレーシングがモータースポーツの規則やJAFの業務に関する講義を担当しました（5月、8月：富士スピードウェイ、6月、12月：鈴鹿サーキット、11月：モビリティリゾートもてぎ）。



取り組みが掲載された 2024 夏号「JAF スポーツ」誌

⑪ 2024 年 J A F モータースポーツ表彰式の開催

国内トップカテゴリーで優秀な成績を収めたチャンピオンおよび上位入賞者の方々の栄誉を称える表彰式を、11月29日にグランドニッコー東京台場（東京・港区）で開催しました。各競技クラス6位までの入賞者、来賓など合計405名が出席しました。



⑫ ドライバー・オブ・ザ・イヤー2024 発表授与式典の開催

その年最も輝いたモータースポーツ競技運転者を投票で決定する「ドライバー・オブ・ザ・イヤー2024」の受賞者を、JAFモータースポーツ表彰式で発表しました。2024年はF1ドライバーの角田裕毅選手が選出され、当日会場ではスポーツ庁・室伏広治長官から賞典が手渡されました※。



※角田選手は当日欠席のため代理人が登壇しました。

⑬ モータースポーツ業務システム構築プロジェクト

各種申請のデジタル化による顧客や関係先との密接な関係作りを目的としたモータースポーツ業務システム構築プロジェクトでは、2025年度のシステム稼働を目指し、各種テストや稼働後の運用体制構築、外部への周知などを準備しました。従来の窓口受付からオンライン申請へ変更するため、運用面での課題やその解決策について討議しました。



モータースポーツマイページTOP画面

(6) 広報・マーケティング活動

① ファンとのコミュニケーション

J A FファンがJ A Fに求めるサービスを対話により理解し、質の高いサービスを共創し提供することを目的に、ファンベース施策を実施しています（5月：山口、6月：札幌、10月：兵庫の各支部で開催）。

本年度から取り組みを始めた兵庫支部では10月にファンミーティング、12月にワークショップを開催しました。参加したファンのみなさんとJ A Fの魅力や今後の施策を話し合い、2025年度に「愛車自慢イベント」を開催することが決まりました。

また、11月に開催した7支部※による職員交流会において、職員の交流、知見の蓄積、実践内容の発信、ファンベースの理解・浸透をはかる場としてファンベースコミュニティを開設しました。

※札幌、埼玉、静岡、兵庫、山口、愛媛、福岡の各支部



5月 山口支部



6月 札幌支部



10月 兵庫支部



11月 「ファンベース交流会」参加の職員

② マーケティング活動のための環境整備と実践

顧客視点での業務改革を推進するため、「マーケティング憲章」を軸としたマーケティング思考の社内浸透と実践に向けて活動しています。

ア 社内向けウェブサイト「みんなではじめるマーケティング」

社内向けには、ウェブサイト「みんなではじめるマーケティング」に業務ごとの活用例や実践例、事業と関係するニュースなどを掲載し、職員がさまざまな角度からマーケティングに触れる機会を設けました。また、自動車販売店との関係強化や自社媒体での広報業務の改善、新卒採用活動の強化、イベントの見直しなど、各地方本部が抱えるさまざまな課題解決を目的とした研修を9回開催しました。

イ 「子どもロードサービス検定」およびウェブサイト「JAFキッズ」

顧客体験価値を高めるため、顧客視点で調査・検討した会員イベント「子どもロードサービス検定」を全国各地で延べ20日間（17カ所）開催し、545名のお子様が体験しました。その他、JAFに対する理解をより深め、将来の就職先候補として認知してもらうべく、お子様向けのウェブサイト「JAFキッズ」を新たに開設しました。



社内向けサイト「みんなではじめるマーケティング」

子どもロードサービス検定

③ 認知およびブランドイメージ向上施策（SNS広告）

前年度のSNSでの広告テスト配信および「JAF認知度調査」の結果をふまえ、認知度が低い傾向の年齢層向けに3媒体（YouTube、Instagram、X（エックス））を選定し、15秒CM動画を配信しました（期間：6、9、11月。各2週間。動画：「災害時のロードサービス」「交通安全啓発」「地域課題の解決」の3種類）。

各回の配信結果を分析し、YouTubeでは配信対象の絞り込み、X（エックス）はテキストや絵文字の工夫、Instagramには縦長動画追加など、それぞれの媒体特性を活かしながら改善しました。



JAFが社会にできること

左から「ロードサービス特別支援隊」編、「交通安全」編、「地域課題の解決」編

④ 各種イベントへのPRブース出展

モータースポーツの振興およびJ A Fの諸サービスの認知向上を目的に、以下のイベントにPRブースを出展しました。

イベント名	期間・場所	イベント内容
F 1日本グランプリ	4月5～7日 鈴鹿サーキット	J A F会員限定の抽選会、鈴鹿サーキットのコースを走行できるeスポーツ体験、スロットカーレースなど、親子で楽しめるコンテンツで大会を盛り上げました。
第23回J A F鈴鹿グランプリ	11月9～10日 鈴鹿サーキット	会員向け大抽選会、スロットカーレース、eスポーツ、ジュニアライセンス発行などを出展し、さらにサーキット内のモニターを使用した「J A Fクイズ」を実施し多くの来場者にPRしました。
フォーラムエイト・ラリージャパン 2024	11月21～24日 豊田スタジアム西イベント広場	eスポーツ体験、ラリーミニカー展示、ジュニアライセンス発行などを出展し、モータースポーツを身近に体験いただきました。
東京オートサロン 2025	1月10日～12日 幕張メッセ	段ボールレッカー車の展示、MR体験、タイヤ交換体験などを出展し、J A Fロードサービスの認知向上をはかりました。
第52回東京モーターサイクルショー	3月28日～30日 東京ビッグサイト	レッカー車と二輪アタッチメント（二輪吊り上げ状態）を展示し、「バイクもJ A F」が対応できることを訴求しました。



J A Fブースの様子
(F 1日本グランプリ)



J A F O × クイズ
(J A F 鈴鹿グランプリ)



J A Fブースの様子
(ラリージャパン)



J A Fブースの様子
(東京オートサロン 2025)



J A Fブースの様子
(第52回東京モーターサイクルショー)

⑤ ウェブサイト「JAF Mate Online」

JAFならではの安全・安心のカーライフ情報や、旅行・レジャー・グルメといった旬の話題を「JAF Mate Online」を通じてタイムリーに提供しています。



JAF Mate Online

⑥ 日本遺産オフィシャルパートナーシッププログラムの締結

会員に向けた新たな価値の提供を目的として、文化庁と「日本遺産オフィシャルパートナーシッププログラム」を9月27日に締結しました。自治体、観光協会、会員優待施設などとの連携や、「JAF Mate Online」を活用して日本遺産の魅力を発信しています。



(左より)
文化庁長官・都倉俊一 JAF 会長・坂口正芳



「日本遺産オフィシャルパートナーシップ」第1回締結式の様子

⑦ モビリティ・レジリエンス・アライアンス

「災害時にも車に困らない社会づくり」の支援のため、「モビリティ・レジリエンス・アライアンス※1」のパートナーシップを結ぶ一般社団法人日本カーシェアリング協会※2に社用車を8台無償提供しました（7月：香川、8月：宮城、11月：広島、愛媛、12月：秋田、福岡、1月：兵庫の各支部）。これまでに同協会に寄付した車両は、合計で16台となりました。

※1 モビリティ・レジリエンス・アライアンス：大規模災害で車を失い、移動に困難を抱える被災者の支援に向けて、平時から自治体・企業・団体の皆様と連携していざというときに迅速な支援を実現すべく発足した災害支援のためのネットワークです。

※2 日本カーシェアリング協会：2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに同年4月から車を失った被災者や高齢者を含めた地域社会を支援するため、全国からの寄付による車を被災者に提供する活動を開始しました。



香川支部



宮城支部



広島支部



愛媛支部



秋田支部



福岡支部



兵庫支部（2台分）

⑧ JAFロードサービス隊員制服アップサイクルプロジェクト※

ロードサービス隊員が着用し古くなった制服を新たな製品へと生まれ変わらせる「アップサイクルプロジェクト」が、クラウドファンディングで支援を募りました（期間：7月10日～8月30日。クラウドファンディングサイト「READY FOR」にて募集）。

期間中 210 名の方にご支援いただき、支援総額は目標金額の 150 万円を超える 227 万円になりました。トートバック専門店「ROOTOTE」の協力のもと製品化し、11 月までに全支援者へ返礼品の発送が完了しました。

※アップサイクル：不要になったものや廃棄されるはずだったものに新たな価値を加え、別の用途の製品として生まれ変わらせること。リサイクルやリメイクとは異なり、製品の素材をそのまま生かすため環境へのさらなる負荷軽減が期待される。



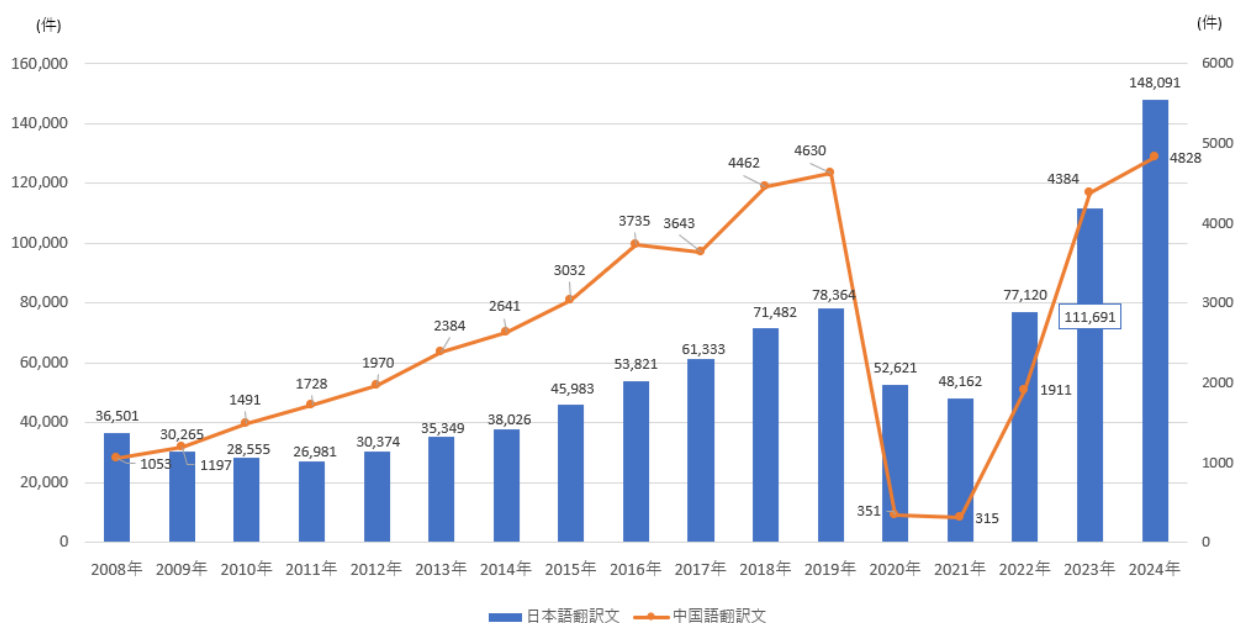
左より：クラウドファンディング募集サイト／支援者に発送されたアップサイクル製品

(7) 国際活動

外国運転免許証の翻訳

外国運転免許証から日本の運転免許証に切り替える際に必要な「日本語による翻訳文」の発行件数は 148,091 件（前年度比：132.6%）となり、日本の運転免許証所持者が台湾で運転するための中国語翻訳文の発行件数は 4,828 件（前年度比：110.1%）となりました。

※ ジュネーブ条約にもとづく国際運転免許証所持者は、日本に入学した日から 1 年間、日本で自動車などを運転することができます。
ジュネーブ条約未締結または国際運転免許証を発給していない国や地域の場合、日本と同等水準の免許制度を有している特定国・地域（スイス・ドイツ・フランス・ベルギー・モナコ公国・台湾）の運転免許証所持者は、「日本語による翻訳文」を添付して自動車などを運転することができます（日本に入学した日から 1 年間）。



外国運転免許証の「日本語による翻訳文」および中国語翻訳文の発行件数

(8) 人事と組織

① 入社式および新入職員養成研修の実施

4月1日、全国の新入職員を集めた入社式を室町三井ホール&カンファレンス（東京・中央区）にて開催しました。4月2～6日にかけて、全新入職員に対してマナー研修、事故防止研修、ロードサービス研修、仕事の進め方・会社理解研修を実施しました。また4月6～20日にかけて、ロードサービス職を対象にロードサービスの基礎的知識と技能を習得するための研修を実施しました。

入社式および新入職員養成研修の対面での開催は4年ぶりとなりました。

② 採用活動について

2025年度入社予定者への採用試験（能力適性、性格検査、面接等）を対面およびウェブで実施しました。採用試験を通過した内定者に対し10月1日に内定式を実施しました。

2026年度入社予定者へのインターンシップをウェブで実施しました。2月にかけて各地方本部で説明会を開催し、参加者から採用エントリーの受付と採用試験を実施しました。

総合職向け・ロードサービス職向けの採用パンフレットをそれぞれリニューアルしました。学生が具体的な仕事内容や1日の業務の流れ、OJTを経て一人前になるイメージがわかりやすい構成としました。

③ 人的資本への投資

人的資本価値を最大化し、あらゆる経営戦略を実現させるため、自律した人材の育成と各組織が自ら新たな挑戦をするボトムアップの風土醸成を目指した施策をすすめています。特に風土の醸成には、日々職員と接する管理職のマネジメントスキルが重要となるため、管理職を対象とした各種研修を実施しています。

ア マネジメント力強化研修

管理職が期待役割を再認識し、自身の強みを伸ばし弱みを改善することを目的に、管理職すべてを含めた301名を対象に、マネジメント力強化研修を実施しました。

イ 事務所長等研修

個人や組織の強みや可能性に注目し、ポジティブ・アプローチによりチーム内の連帯感を高め、組織全体の士気を向上させることを目的に、事務所長および事務所次長60名を対象に研修を実施しました（7月：オンライン研修、10月：全国10カ所での集合研修）。

ウ フォロワーシップ研修（新規実施の研修）

組織風土の変革を加速させることを目的に、次期管理職である係長・主任クラスの職員計160名に対して、フォロワー型リーダーシップ研修を開催しました（6～7月、4回）。

エ 入社3年次・5年次研修

事故防止と同期入社職員間のコミュニケーションの機会創出を目的に、入社3年次の職員110名、および入社5年次の職員90名に対し研修を実施しました。「モビリティリゾートもてぎ」（栃木・芳賀郡茂木町）にて、座学研修のほか実際の運転を通じた緊急時制動や低μ路走行などを体験しました。

④ 健康経営の推進

「従業員が健康であってこそ、モビリティユーザーへ安全と安心の支えとなるサービスを提供できる」という理念のもと、全社で健康経営を推進しています。

卒煙プログラムの導入やがん検診への補助など疾病予防、各種eラーニング（「歯と口の健康」「女性の健康」「食生活見直し月間」動画セミナー配信）、ウォーキング大会など開催しました。

12月には健康経営の取り組みが評価され、健康保険組合連合会東京連合会が主催する健康優良企業認定において2年連続で「銀の認定」を受賞しました。

3月には、経済産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人認定制度」において「健康経営優良法人（大規模法人部門）」に3年連続で認定されました。

⑤ 新規事業創出に向けた組織風土醸成

JAFにおける新規事業の探索および新規事業創出の風土醸成と機運を高めるための手段として、「ビジネスアイデアコンテスト2024」を開催しました。

発案者6組が「中間報告会」と位置づけた役員プレゼンに臨みました。

継続検討するアイデアは、社内の新規事業サポート制度で引き続き支援します。



役員プレゼンの様子

⑥ 地域社会との対話を通じた課題解決の推進

ア 産官学連携活動

大学や自治体などと連携した地域振興を推進し、7 地方本部 24 支部が 34 校および 8 自治体と活動しました。



産官学連携（神奈川・相模原市、國學院大學「新たな観光スポット」を発掘！）

イ 支部のあり方・未来構想プロジェクト

地域の人々との対話や共創を通じて課題解決に取り組み、社会（地域・顧客）にファンを増やす活動「支部のあり方・未来構想プロジェクト」を各地方本支部にて進めました。

これらの活動が評価され、5 月に開催された「HR's SDGs アワード 2024」（One HR※主催）において、本プロジェクトの取り組みが「働く責任 働く自由」部門の優秀賞を受賞しました。

※企業と個人の持続的な成長の実現を目指し、志ある HR パーソン（HR 事業者と企業人事）を中心に活動する有志団体



広島支部：路面電車と自動車の接触事故減少に関する取り組み

(9) 情報システム

① デジタル・データリテラシーの学習体制整備

ア JAFITアカデミー

職員のITリテラシーおよびガバナンス向上を目的として、ITに関する学習コンテンツ「JAFITアカデミー」を展開しています。

本年度の新入職員および期中採用者などを対象に、JAFIT3級※1を6～7月と9月、JAFIT2級※2を9月に実施しました。

※1 JAFIT3級：入社時に求められるITデジタルリテラシー（P検3級相当）、データ分析基礎、情報システム規程などからなる学習コンテンツと理解度テスト

※2 JAFIT2級：ICT活用の総合力を有しビジネス上の問題解決可能ができるレベルのITデジタルリテラシー（P検2級相当）、データ分析応用編、IT関連用語などからなる学習コンテンツと理解度テスト

イ シチズンデベロッパー認定制度

各部署・各支部がITデジタルを活用した業務改革に自ら取り組めるよう、その技術習得のための「シチズンデベロッパー※1認定制度」を運用しています。本年度の70名を加え、認定者は152名となりました（基本コース140名、RPAコース12名※2）。

※1 シチズンデベロッパー：プログラミングの深い知識がなくてもアプリケーションが作れる「ノーコード/ローコードツール」を活用して、自ら業務改善するためのアプリを開発する職員

※2 RPA：Robotic Process Automationの略で、PCでの事務作業を自動化できるソフトウェアロボット技術のことです。

ウ 「JAF AI Chat」（生成AI内製アプリ）体験会

AIの正しい理解と活用を進めるため、4月より本部各部署や地方本支部で「JAF AI Chat」（生成AI内製アプリ）体験会を実施し、1,316名が参加しました。

エ Microsoft Copilotパイロット養成講習

Microsoft 365 Copilot※を活用し、業務効率や仕事の質を向上させたい職員を全国から募集しました。11～1月で214名が講習を受講しました。

※ Microsoft 365 Copilot：WordやExcel、TeamsなどのMicrosoft 365アプリに組み込まれたAIベースのアシスタントアプリです。使い慣れたツールで文書作成や、データ分析などを支援し、業務時間短縮と質の向上がはかれます。

② 基幹システム更改に関連するプロジェクト活動

「JAFのITデジタル将来構想」を実現するため、JAF統合システム更改を機に、データ分析や各種サービス業務処理のデジタル化に取り組む部署横断のプロジェクトチームが稼働しています。業務プロセスの重複やムダを排除し、ITデジタル化による顧客データの活用やプラットフォームビジネス創出などの注力すべき領域へシフトするため、新たなIT基盤の構築と体制の整備を目指しています。

ア 次期システムプロジェクトチーム

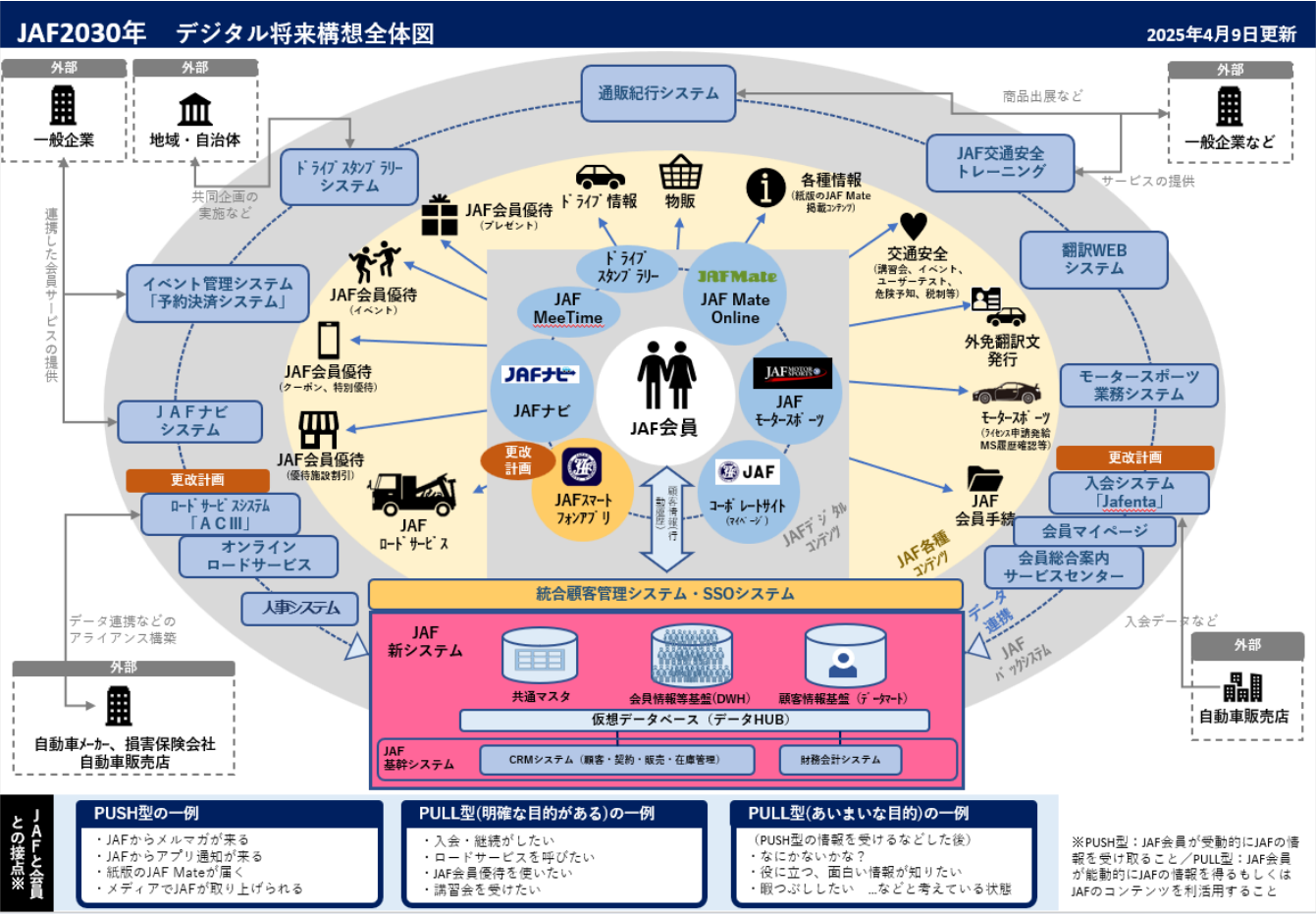
2025 年 4 月の稼働に向けて、以下の作業を進めました。

期間	内容
5～11 月	システムテストおよび性能テスト
10 月～2025 年 3 月	ユーザー受入テスト
11 月～2025 年 1 月	移行リハーサル（最終段階）
2025 年 2 月～3 月	業務習熟、マニュアル改訂など
2025 年 2 月～6 月	本番履歴データ、2024 年度決算移行

イ データHUBプロジェクトチーム

各システムのデータを一元的に格納・管理し、会員サービスなどに関する各種分析やマーケティングの効率化をはかるために、データ連携基盤の開発を進めています。

結合テスト、移行リハーサルおよびシステムテスト、ユーザー受入テストの各工程を完了しました。また新年度稼働に向けた次期システムの計画に合わせて、3 月末からデータ HUB においてもデータおよびインターフェースの移行を進めました。



J A F の デ ジ タ ル 未 来 構 想 図

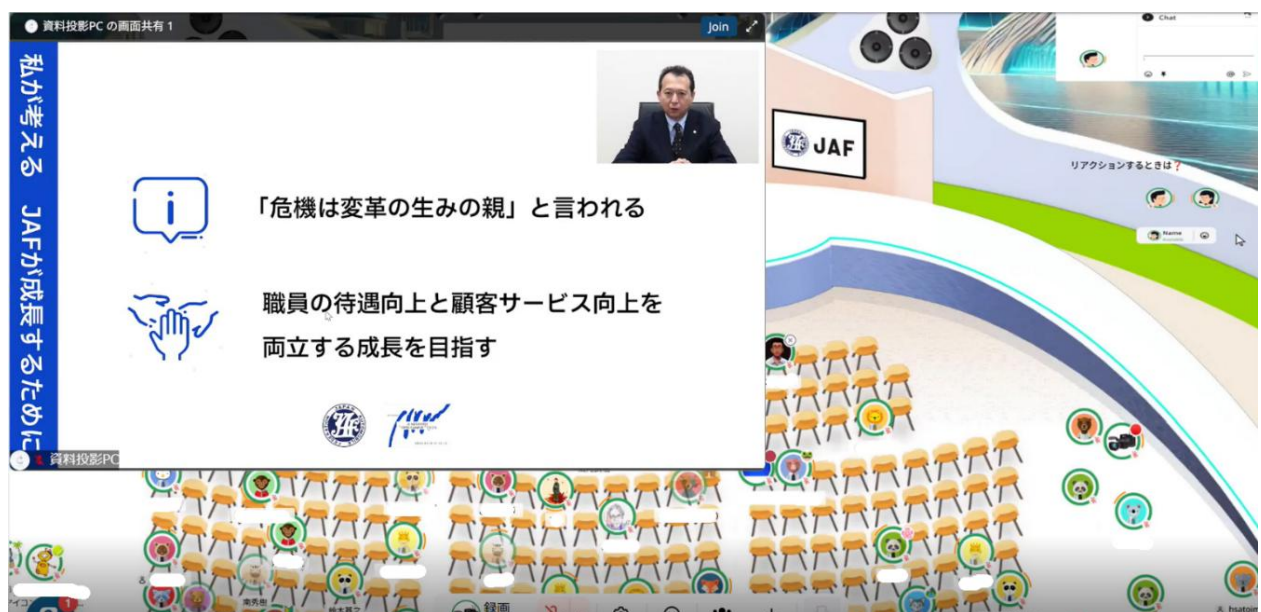
③ I T デジタルを活用した業務改善

RPAやノーコード・ローコードツール※など最新のITツールを活用し、本部各部署および地方本支部にてアプリケーションを内製開発し、業務改善を進めました。本年度は15種類のアプリが稼働しました。

3月には「もっと使えるデジタル、もっと広がる可能性」をテーマに、メタバース上で「JAF ITアカデミー@メタバース “オープンキャンパス” 2025」を4日間にわたり開催しました。他業種他業界の参加者も招待して、業界の第一人者やJAF役職員による講演をおこないました。

また、AIやAIEージェントなどの調査研究、実証実験をおこないました。

※ノーコード・ローコードツール：高度なプログラミングの知識や経験を必要としない最小限のコーディング（またはコーディングなし）で、ソフトウェアを開発するためのツールです。



JAF IT アカデミー@メタバース “オープンキャンパス” 2025 開催風景